○　昨日，公表されました「令和元年度公立学校教職員の人事行政状況調査」の結果，広島県は，都道府県別の，全ての学校種を合計した校長数のうち女性が占める割合が，30%を超えております。

○　この割合は，いわゆる２０２０３０，日本政府が男女共同参画基本計画に平成 12 年から掲げておりました「社会のあらゆる分野において，2020 年までに，指導的地位に女性が占める割合が，少なくとも 30%程度」にするという目標，それを超えたものになります。

○　主な要因といたしましては，広島県では，小学校の教員数のうち女性が占める割合が高くなっており，その小学校で，校長数のうち女性が占める割合が 46.9%と高くなっていることが挙げられます。

○　子供にとって，多くの時間を過ごす学校で，女性の校長が多いということは，キャリア教育の面でも良い影響があると考えています。というのは，身近な存在であり，学校のリーダーである校長が多様であればあるほど，子供たちの良いお手本・見本・目標になると思うからです。

○　引き続き，多様な人材の管理職への登用を進めてまいりたいと考えております。

○　私からは以上です。